

# 古事類苑

## 人部二十一

勇 脅力 怖懦 例入

勇ハ、イサムト云ヒ、又タクシト云フ、勇敢ニシテ物ニ憶セザルヲ謂フナリ、我國古來事ニ當テ勇ヲ奮ヒシモノ甚ダ尠カラズ、今ハ只其顯著ナル者數例ヲ錄スルノミ、

脅力ハ、又力持ト云ラ、力ノ強キモノ、謂ナリ、我國亦此種ノ人ニ乏シカラズ、或ハ數十人ノ力ヲ兼ヌルアリ、或ハ又女子ニシテ、其力能ク馬ヲ凌グモノアリキ、

怯懦六、オヂナシト云ヒ、オシルト云ヒ、後ニ、臆ス、又ハ、臆病トモ云フ、資姓懦弱ニシテ、濫リニ恐怖スルヲ謂フナリ、

〔新撰字鏡〕言三形同、囁容反、勇也、詒説訟訴也、詔也、伊佐牟、

〔類聚名義抄〕四八勇字歛、力部、

〔段注說文解字〕十三下肺氣也、氣雲氣也、引申爲人充體之氣、之稱、力者筋也、勇者氣也、氣之所至、氣乃至焉、故古文勇从心、左傳曰、共用之謂勇、从

力、甬聲、余臚切、

〔倭訓栞〕前編三いさむ、勇をよみ、新撰字鏡に訓もよめり、率なふと義通へり、

〔神道玄妙論〕勇は、伊佐美と訓來れり、いさみ、いさむ、いさまむと活用き、敢て事を行ふにいへり、また諫諍などの字をいさめと訓も、いさみを活かしたる也、懈怠はこのうら也、

〔日本書紀一神代〕生素戔鳴尊、一書云、神素戔鳴尊、速素戔鳴尊、此神有勇悍以安忍、且常以哭泣爲行、故令國內人民多